

第 644 回：【4 年生向け】卒論を締切に間に合わせよう (DM)

皆様こんにちは。LA 毎週月曜……ではなく (!)、心機一転、後期からは毎週木曜 13:30~16:30 の担当になりました、博士課程の DM です。

これまで通り、皆様の学修を全力でサポートいたします。どうぞよろしくお願いいたします！

さて、今回の LA 通信は後期一回目。

ということで、卒論に忙しい四年生に向けた内容をお届けします。

私からは二点ほど。

(I) 問題設定を見直す (余裕がない人向け)

：忙しくてあまり研究時間を確保できなかったり、研究が途中で行き詰まってしまったりして、余裕のない方には、問題設定の見直しをオススメします。

自分の文章を論文にするためには、設定した問題に対する自分の主張を論証するのが最低条件です。逆に言えば、「自分の主張を論証できるような問題を設定すれば OK」なのです。

戦略的になりましょう。時間や研究に余裕のない方は、余裕を持って解決できる問題に設定し直せばいいのです。

たとえば、ウンベルト・エーコは、「心理学の論文となれば、『ピアジェにおける知覚の問題』か『知覚の問題』かのどちらを選ぶか」という問いを出しています (エコ 1991: 20)。答えは前者です。なぜなら、後者よりも前者の方が、テーマが具体的に限定されているからです。

テーマを限定したら、すぐさま、そのテーマに関する先行研究を複数集め、各論者の主張を比較しましょう。論者間の違いはもちろ

んですが、何より、論者たちの主張に対する自分の意見との違いを吟味することができます。「あいつらの言ってること違うじゃん！」と思えたなら、その確信が、余裕です。後はその証拠を列挙するだけです。

そこまで問題を絞り込めたなら、後は作業だけです。

(II) 文章を推敲する (余裕がある人向け)

：現時点で卒論がある程度は完成しているが、さらによい論文にしたいという方は、卒論の文章を推敲し、文章をさらに分かりやすくしていきましょう。

小熊 (2022) も戸田山 (2022) も、型式に沿って論文を書くことを強調しています。なぜなら、論文の規格に沿っているものが「論文」として評価されるからですし、そもそも、「こういう順序で語れば意見は伝わる」という修辞学の技術を集約させたものが、論文という型式であるからです。内容がまとまっているなら、論文の型式を復習し、それに沿って推敲する作業に時間を充てるのがいいでしょう。

「自分の文章は分かりづらくないか」が気になるならば、思い切って、自分の卒論を他人に読んでもらうのがいいでしょう。自分には分からないのが他人なのです。他人の感想は他人に訊くのが一番です。

読んでもらう相手は、ゼミの先生に限る必要はありません。案外、知識を何も共有していない身近な友人の感想が有益だったりします。「何の前提もなしに読めばどうなるか」が分かるからです。辛口な友人がいるとなおよしですね。

先行研究にせよ、論文の型式にせよ、他人

第 644 回：【4 年生向け】卒論を締切に間に合わせよう (DM)

の感想にせよ、共通しているのは、何らかの参照先を見つけ、自分の主観に閉じこもらないことです。これが、よりよい卒論を書くコツだと思います。

……と、今回の LA 通信はここまで。今期もどうぞよろしくお願いします。

参考文献

ウンベルト・エコ (谷口勇[訳]) 『論文作法：調査・研究・執筆の技術と手順』而立書房、1991 年：書庫 1F (開架)、N801.6==28

小熊英二 『基礎からわかる論文の書き方』(講談社現代新書 ; 2660) 講談社、2022 年：閲覧室入口正面、K2660

戸田山和久 『論文の教室：レポートから卒論まで』(NHK ブックス, 1272; 最新版) NHK 出版、2022 年：閲覧室入口正面、N816.5==140